

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：実際に商品企画をするとともにファッションビジネスの流れを学び、商品企画力を身につける。</p> <p>○授業の目的、概要 アパレルの商品企画は、消費生活者のニーズにあった商品で、新しいスタイルデザインをどのようにして市場に出していくかという事である。この商品価値は、実用面での機能性、好みや流行といった情報性、消費者の投資とその経済性の関数であるといえる。そのような複雑な要素からなるアパレル企画商品の原点は、消費生活者の身の回りに求められるべきものである。今日のような豊かな生活では、何が本当に役立ち、生活を豊かにしてくれるのか、原点から改めてアパレル企画とは何かを理解する必要がある。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品企画および流行とは 2. ライフスタイルとファッション；マズローの7段階説の説明、AIDMAN理論の説明、購買行動プロセスなど 3. ライフスタイルと自己分析；パーソナル・カラー、ワードローブのコーディネート 4. ファッション業界の構造と専門職 5. ファッション商品計画 6. ファッション情報収集 7. 企画技法の説明 8. KJ法の演習 9. 物のデザインや人の感性を分類 10. ファッションの感覚的な分類をマスターする 11. ファッショントレンドのテーマとは 12. ファッショントレンド情報の分析 13. ファッションディレクションを作成する 14. ファッション表現で自己プレゼンテーション 15. ライフスタイルとファッションデザイナー、最後に試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習形式で進める。演習は、プリントを配布する。
評価方法 Evaluation	定期試験、提出物、出席状況により総合評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	『アパレル企画—基礎と演習—』日本衣料管理協会 プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業内にて紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：色・形・素材などからアパレルデザインの基礎を学ぶ</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>ファッション領域の科目全体を概観するための必修科目である。他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、アパレルファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、目的、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：アパレルデザインとは 2. 服飾デザイン：ファッションとは何か 3. ファッションデザインと色彩の基礎 4. 色の3属性（日本色研配色体系（P.C.C.S.）、マンセル色体系、オストワルト色体系）を学ぶ。 5. 配色の論理：主にトーンの配色を説明する。 6. 流行色と基調色 7. 色彩計画と中間試験 8. ファッションデザインと造形要素：点・線・形など 9. 服飾の形体：面と立体 10. 秩序の理論：統一と変化、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 11. 服飾の歴史：洋服の形、色などの歴史 12. ファッションデザインと文様・素材感 13. 衣服の基本構造と構造線、服飾線 14. ファッションの美的統一 15. ファッションデザインの発想と表現、最後に試験。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	定期試験、提出物、出席状況により総合評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	日本衣料管理協会刊行委員会『アパレルデザインの基礎』（社団法人日本衣料管理協会）
参考書 Reference(s)	授業中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	古家 伸一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>高度に電子化された家電機器との付き合い方</p> <p>家庭で使用される機器は科学技術の発展と共に高度化されてきました。そしてこれら多種多様な家電機器を私たちは利用し、快適な生活を営んでいます。一般の家電機器にコンピュータを搭載することに何のふしぎもなくなり、最近ではこれら家電機器間がネットワークで結ばれようとしています。</p> <p>この講義では、このような状況の中で利用されている主な家電機器の一般的な仕組みを理解し、機器の購入や使用ならびにそれにまつわるさまざまな問題、さらにはトラブル発生時の具体的・現実的な対処・対応のための基本的な知識を学習します。また、情報と結びつく家電機器についても考えていきます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：授業概要 第2回：国際単位系 第3回：電気用図記号 第4回：電気、その発生から消費まで 第5回：電池 第6回：パワーエレクトロニクス 第7回：モータ 第8回：冷暖房 第9回：誘導加熱 第10回：照明 第11回：音楽、映像 第12回：放送、通信、電話 第13回：ネットワーク 第14回：コンピュータ 第15回：家電製品の今後</p> <p>なお、授業の進行状況により内容が前後したり変更になることがあります。詳細は授業用web page上でフォローしますので詳しくはそちらを見てください。</p>						
参照URL Reference URL(s)	http://web.shoin.ac.jp/furuya/2010/						
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	平常点（小テストを含む）50%、提出物 50%						
履修上の注意 Requirements and policy	授業はWindows教室で行います。授業中にインターネットを利用した資料収集を行い、簡単なレポートにまとめて提出を求めることがあります。						
教科書 Textbook(s)	教科書の指定はありません。必要に応じてプリントや授業用web page上のオンラインテキストを使用します。						
参考書 Reference(s)	授業中および授業用web page上で紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	坂井 信之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学実験法の習得（実習を中心に） 最初に、人間の行動や心理を理解するためにこれまでどのような実験研究が行われてきたか、ということに関する概説を行う。このとき、いくつかの具体的な実験を体験し、自らでデータの分析を行い、レポートを作成することによって、心理学や行動科学の実験手法を修得する。さらに、それらのいくつかを自分たちで再検討することにより、心理学実験に関する理解を深める。具体的な実験例として、「コンピュータを用いた錯視実験」、「味嗅覚刺激を用いた精神物理学実験」、「食物刺激を用いた食物嗜好に関する実験」、「脳波や脈波を指標とした生理心理学的実験」などを予定している。
授業計画 Syllabus	第1回心理学研究法について 第2回コンピュータを用いた錯視実験（その1） 実験をやってみる 第3回コンピュータを用いた錯視実験（その2） 実験データのまとめ方 第4回コンピュータを用いた錯視実験（その3） 実験レポートの書き方 第5回心理学実験実習（その1） 鏡映描写（教科書11） 第6回心理学実験実習（その2） 色の見かけ上の重さ（教科書2） 第7回心理学実験実習（その3） 情報の伝達（教科書16） 第8回心理学実験実習（その4） ことばと記憶（教科書18） 第9回心理学実験実習（その5） 集団圧力と同調行動（教科書21） 第10回心理学実験実習（その6） 色が行動に及ぼす影響（ストループ効果） 第11回心理学実験実習（その7） においの感度を測る（精神物理学） 第12回心理学実験実習（その8） 脳の働きを知る（生理心理学） 第13回心理学実験実習（その9） 食物のおいしさ（知覚・認知心理学） 第14回3年生の実験への参加 第15回まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実験・実習形式
評価方法 Evaluation	毎回の実験報告書と実験への取り組みに基づいて評価する。評価比率は、実験報告書60%、実験への取り組み40%であるが、実験報告書については指定された報告書すべて提出することが必須である。
履修上の注意 Requirements and policy	行動科学基礎演習Ⅰを履修しておくこと。毎回何らかの作業があるので、毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合には、その作業を必ず各自で行っておくこと。
教科書 Textbook(s)	行動科学基礎演習Ⅰと同じ。

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に行っている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 家族の形態とその変化 5. 少子化とその原因分析 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポートと期末試験（授業中の小レポート40% 期末試験 60%）
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また遅刻3回で欠席1回とする。
教科書 Textbook(s)	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活III（情報社会）						
担当教員	池信 敬子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>現代社会はたくさんの情報で溢れている。さまざまなメディアを通じて伝えられる情報は、私たちのコミュニケーション活動に大きな影響を与えている。さらに、情報技術の発達により、現代の高度情報社会では「いつでも」「どこでも」「誰でも」情報を発信することが可能となった。</p> <p>本講義は、情報をめぐるコミュニケーションの有り様を捉え直し、情報の送り手となるツールを手にした私たちが高度情報社会の中で生きるということについて考察することを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス 情報社会</p> <p>第2回 コミュニケーションと情報 (1)</p> <p>第3回 コミュニケーションと情報 (2)</p> <p>第4回 コミュニケーションと情報 (3)</p> <p>第5回 メディアと情報 (1)</p> <p>第6回 メディアと情報 (2)</p> <p>第7回 メディアと情報 (3)</p> <p>第8回 メディア・リテラシー (1)</p> <p>第9回 メディア・リテラシー (2)</p> <p>第10回 メディア・リテラシー (3)</p> <p>第11回 情報の発信と「私」 (1)</p> <p>第12回 情報の発信と「私」 (2)</p> <p>第13回 情報の発信と「私」 (3)</p> <p>第14回 高度情報社会を生きる</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	<p>期末試験と平常点（出席、ミニレポート、課題等）によって総合的に評価します。</p> <p>（期末試験60%、平常点40%）</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回、講義の感想（ミニレポート）を提出してもらいます。</p> <p>基本的には講義形式ですが、ワークシートの作成やグループワークなどテーマに即した学習方法を取り入れます。</p>
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業時に適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅳ（共生社会）						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	多文化共生について考える 共生社会とは、民族、男女、世代、地域など様々な生活習慣、文化をもつ集団に属する人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会のことである。21世紀はグローバリゼーションが進み、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に互いを尊重しながら暮らしていく社会に必要なものはどのようなものであろうか。現在、グローバリゼーションや少子高齢化への対応を理由とした、本格的な外国人労働者、留学生、移民の受け入れの提言がなされている。これらのことも視野に入れて、様々な人々が共生するためにどのようなことを考えていったらよいかを共に考えたい。						
授業計画 Syllabus	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回世界の中の日本 第5回在住外国人の受け入れのしくみ 第6回日本社会の多様性を知る① 第7回日本社会の多様性を知る② 第8回日本社会の多様性を知る③ 第9回日本社会の多様性を知る④ 第10回日本社会の多様性を知る⑤ 第11回多様な人々との共生① 第12回多様な人々との共生② 第13回多様な人々との共生③ 第14回多文化共生について考える 第15回まとめ						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式						
評価方法 Evaluation	授業中に書いてもらう小レポート、小テスト（複数回）、課題、および出席で評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	必要に応じて随時資料配布を行う。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。 グローバル化時代の日本型多文化共生社会 著 駒井洋（明石書店）						
備考 Remarks							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>関連する調査研究を理解するための知識を養い、量的データや質的データの作成の技術と解析の方法について学ぶ。</p> <p>事例調査・統計調査の理論と技法について学び、適切な技法を選択し、実査計画・分析計画の立て方、及び調査票の点検、編集、及びコーディングの手法を学ぶ。統計データの読み方やグラフや表の理解について学び、それらの知識に基づいて、統計ソフトを用いた初歩的な集計の仕方の実習を行う。また質的データについても、内容分析やインタビューの分析の仕方の実習を行う。最終的には、社会調査データの解析手法についての理解を深める。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例調査の方法—既存の事例調査を題材として、事例の分析の方法を学ぶ— 2. 内容分析の実際—メディア上の訂正的なデータを計量データの変換し分析する方法を学ぶ— 3. 既存の資料の収集とテキスト分析—大学のパンフレットを収集し、写真、記事などから読み取れるデータを探す— 4. 様々な内容分析—メディア間の比較—大学のパンフレットからのデータとインターネットのホームページからのデータとの比較 5. 分析単位の設定とコーディング—単語、段落、記事などと、写真の大きさ、色などの分析単位を決定しカードに書きこむ— 6. コーディングシートの作成と修正—それぞれのカードをKJ法によって、分類し、ラベルをつけ、さらに共学と女子大のグループでカード群を仕分けする— 7. 内容分析の妥当性—図解化によって得られた結果の代表性を考える— 8. 内容分析の報告書の作成—先行研究からの分析を加えた報告書を作成する 9. 面接調査の実際—インタビューをしてみよう—企画・設計とラポール、プライバシーの問題 10. ライフコースアプローチの実際—ライフコース分析—ライフストーリー論— 11. インタビュー記録のまとめ方—フィールドノーツとインタビューのテープ起こし— 12. インタビュー記録のまとめ方Ⅱ—時代背景と生活経歴との関連を分析した表を作成する 13. ライフコースアプローチによる報告書の作成—先行研究からの分析を加えた報告書を作成する。 14. 分析結果のプレゼンテーション—内容分析とインタビュー記録の報告書をレジュメやパワーポイントによって発表する— 15. 事例調査と統計調査の関係—事例調査と統計調査の意義と方法上の問題点を考え、調査対象へのアプローチの仕方を学ぶ— 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	授業中の小レポートと期末レポート（授業中の小レポート40% 期末レポート 60%）						
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。						
教科書 Textbook(s)	ライフストーリー分析—質的調査入門— 大久保孝治 学文社						
参考書 Reference(s)	社会調査へのアプローチ（第2版） 著 大谷信介他（ミネルヴァ書房）						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>関連する調査研究を理解するための知識を養い、量的データや質的データの作成の技術と解析の方法について学ぶ。</p> <p>事例調査・統計調査の理論と技法について学び、適切な技法を選択し、実査計画・分析計画の立て方、及び調査票の点検、編集、及びコーディングの手法を学ぶ。統計データの読み方やグラフや表の理解について学び、それらの知識に基づいて、統計ソフトを用いた初歩的な集計の仕方の実習を行う。また質的データについても、内容分析やインタビューの分析の仕方の実習を行う。最終的には、社会調査データの解析手法についての理解を深める。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例調査の方法—既存の事例調査を題材として、事例の分析の方法を学ぶ— 2. 内容分析の実際—メディア上の訂正的なデータを計量データの変換し分析する方法を学ぶ— 3. 既存の資料の収集とテキスト分析—大学のパンフレットを収集し、写真、記事などから読み取れるデータを探す— 4. 様々な内容分析—メディア間の比較—大学のパンフレットからのデータとインターネットのホームページからのデータの比較 5. 分析単位の設定とコーディング—単語、段落、記事などと、写真の大きさ、色などの分析単位を決定しカードに書きこむ— 6. コーディングシートの作成と修正—それぞれのカードをKJ法によって、分類し、ラベルをつけ、さらに共学と女子大のグループでカード群を仕分けする— 7. 内容分析の妥当性—図解化によって得られた結果の代表性を考える— 8. 内容分析の報告書の作成—先行研究からの分析を加えた報告書を作成する 9. 面接調査の実際—インタビューをしてみよう—企画・設計とラポール、プライバシーの問題 10. ライフコースアプローチの実際—ライフコース分析—ライフストーリー論— 11. インタビュー記録のまとめ方—フィールドノーツとインタビューのテープ起こし— 12. インタビュー記録のまとめ方Ⅱ—時代背景と生活経歴との関連を分析した表を作成する 13. ライフコースアプローチによる報告書の作成—先行研究からの分析を加えた報告書を作成する。 14. 分析結果のプレゼンテーション—内容分析とインタビュー記録の報告書をレジュメやパワーポイントによって発表する— 15. 事例調査と統計調査の関係—事例調査と統計調査の意義と方法上の問題点を考え、調査対象へのアプローチの仕方を学ぶ— 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	授業中の小レポートと期末レポート（授業中の小レポート40% 期末レポート 60%）						
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。						
教科書 Textbook(s)	ライフストーリー分析—質的調査法入門— 大久保孝治 学文社						
参考書 Reference(s)	社会調査へのアプローチ（第2版） 著 大谷信介他（ミネルヴァ書房）						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品加工実習						
担当教員	川窪 淳子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>食品加工の原理と実際 加工食品は、食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として作られてきたものであるが、最近の加工技術の進歩には、目覚ましいものがある。本実習では、実際の加工操作を通して、原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握するとともに、実習に対する観察力と科学的思考力を養う。また、実際に加工したものと市販されているものとの違いから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状について考えることを目的とする。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 実習における緒注意、実習の内容説明 第2回 豆類の加工：味噌の仕込み、きな粉 果実、野菜類の加工：ジャムの準備（実験計画） 第3回 畜産物の加工：アイスクリーム、チーズ 第4回 穀類の加工：グルテンの分離、麩（焼き麩、生麩） 第5回 穀類の加工：うどん 第6回 野菜、果実の加工：ジャム（瓶詰め、缶詰の実際） 第7回 穀類の加工：パン（発酵パン） 畜産物の加工：バター、マヨネーズ 第8回 野菜類の加工：漬物（ピクルス） その他：キャラメル 第9回 野菜類の加工：トマトケチャップ くん煙方法について 第10回 畜産物の加工：ポークソーセージ 第11回 イモ類の加工：コンニャク 第12回 微生物利用の加工食品：発酵食品の顕微鏡観察。甘酒など 第13回 穀類の加工：団子、餅 第14回 豆類の加工：豆腐（木綿豆腐、絹ごし豆腐） 第15回 豆類の加工：味噌 実習のまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	出席点および平常点（受講態度）80% + レポート 20% により評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視する。2/3以上の出席が必要。レポート提出期限厳守のこと。 第2回から、実習用白衣、上靴が必要。
教科書 Textbook(s)	食品加工学実験書 著 森 孝夫編著(化学同人)
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	橘 ゆかり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	目的：食品の成分を科学的に見る 食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に「美味しさ」に関する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香について主に化学的側面から論じる。そして触覚に関する物性についても述べる。
授業計画 Syllabus	第1回 食品の分類 第2回 食品の分類と栄養素 第3回 食品の成分と特徴－炭水化物 第4回 食品の成分と特徴－脂質 第5回 食品の成分と特徴－たんぱく質 第6回 食品の成分と特徴－ビタミン 第7回 食品の成分と特徴－無機質と水 第8回 食品の嗜好成分－色－ 第9回 食品の嗜好成分－味・香－ 第10回 食品の成分間反応 第11回 植物性食品 第12回 動物性食品 第13回 調味料と嗜好飲料 第14回 食品の物性 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	定期試験65%、小テスト・レポート20%、平常点15%
履修上の注意 Requirements and policy	出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。
教科書 Textbook(s)	豊沢 功・熊岡 浄・安部史子共著「身近な食品学（第2版）」化学同人 ISBN:978-4-7598-1136-0
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品の保蔵・貯蔵						
担当教員	川窪 淳子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	食品の保蔵、貯蔵の原理と方法 人類の生存には、食糧の確保は不可欠であり、これには、食糧の生産と共に、食品の品質が劣化しないように安全に貯蔵することが必要である。本講義では、食品の品質変化に関係する要因を理解し、食品の各種貯蔵法の特徴を学ぶ。さらに、最近よく用いられる貯蔵法のメリット・デメリットについて考え、食品の保蔵、貯蔵の理解を深めることを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回 概論 食品の保蔵・貯蔵について 第2回 I 食品の品質劣化とその要因 ①微生物による劣化 第3回 ②水分と湿度 第4回 ③温度、酸素、酵素 第5回 ④pH、光、その他 第6回 II 食品の保存法と保存食品 ①水分活性の低下と浸透圧による保存 第7回 ②水素イオン濃度（pH）低下による保存 第8回 ③低温による保存 第9回 ④くん煙による保存 中間確認試験 第10回 ⑤滅菌、除菌、殺菌による保存 ⑥食品照射による保存 第11回 ⑦空気組成の調節による保存 第12回 ⑧食品添加物による保存、その他 第13回 III 最近の貯蔵・保存技術について ①概論 第14回 III 最近の貯蔵・保存技術について ②問題点、展開について 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験（中間50%+まとめ50%）に出席状況、平常点（受講態度）を加味して評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要。
教科書 Textbook(s)	新食品・栄養化学シリーズ「食品加工学」食べ物と健康③ 森孝夫編 化学同人
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学II（食）						
担当教員	飯塚 勝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「食」については生きてゆくための基本的な行いで、食べる材料（食品）をもとにそれをいかに食べるかということまでこれまでの人の長い歴史の中で地域や集団の中から文化（食文化）が形成されてきた。まず、食品成分の5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について生化学の基礎を学習し、食品の機能（栄養、味覚、生体の調節）、生体内の食物成分の代謝についての知識を習得し、活動的で健康な体を維持する方法について学ぶ。また、食品の色、味、香りなどの性質を活かした食品の加工・調理法や食べ方などを通じ人と人の交流がなされるので、食文化についても現状を分析し、これからの食がどうなされるべきかを考察する。
授業計画 Syllabus	第1回 食とは？ 第2回 食品の分類 第3回 食品の成分 水 第4回 食品の成分 炭水化物（糖質） 第5回 食品の成分 タンパク質 第6回 食品の成分 脂質 第7回 食品の成分 ビタミン 第8回 食品の成分 ミネラル 第9回 食品の味・機能 第10回 食品成分の変質1 炭水化物 第11回 食品成分の変質2 アミノ酸、タンパク質 第12回 食品成分の変質3 脂質 第13回 食品の物性、色、香り、味 第14回 食環境・食の安全 第15回 食文化 第16回 まとめ（試験）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験（70%）レポート、授業態度（30%）。受講率も考慮する。
履修上の注意 Requirements and policy	配布物はよく利用すること。
教科書 Textbook(s)	プリンを配布するが、後に指定する予定
参考書 Reference(s)	授業の時に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学III（住）						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代日本の都市住宅について、その基礎的な知識を得て理解を深めること。 具体的内容は、①住宅とはなにか（日本の住宅の特徴、歴史、間取）、②現代住宅の多様性、③高齢者居住、④家族の変容と住宅である。とりわけ、教科書と配布プリントを使いながら、①に重点を置く。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、住まいの色々（スライド） 2. 日本の住まいの特徴 3. 住居の歴史・・・中世まで（スライド） 4. 住居の歴史・・・近代（スライド） 5. 住居の歴史・・・現代（スライド） 6. 間取・・・公室、ビデオ 7. 間取・・・私室、小テスト 8. 高齢者の住まい 9. 家族の変容と住居 10. 戸建住宅と居住地 11. 集合住宅と近隣生活 12. 住居の管理 13. 需要と供給 14. 住居の計画と設計 15. 学生の考える「住戸平面図」の作成
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、パワーポイントやビデオも使い、学生との意見交換の場をも持ちながら双方向性を重視する。 ・毎回質疑用紙に記入してもらい、それに対し次回の授業でコメントする
評価方法 Evaluation	平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	日頃から、住宅についての興味を持ち、また、新聞記事・テレビ・インターネットや折込チラシで住宅関連の情報をみておくこと
教科書 Textbook(s)	教科書は、「新版 住居学入門」湯川聰子他 著(学芸出版社)
参考書 Reference(s)	・「マンション 企画・設計・管理」都市公団関西集合住宅研究会著（学芸出版社）
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学Ⅳ（ヒト）						
担当教員	坂井 信之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、ヒトを生物の一種として捉え、通常の生活の中でヒトがどのようにして外界を認知し、働きかけているのかということ論じる。なかでも思考や言語などのいわゆる高次脳機能が生じる脳の機能を中心に話を進める。ヒトの体の中で、どのようなときにどのような化学変化が起こっているかということを知ることがこの授業の中心となる。最終的な目的としては、新聞やテレビで見聞きするヒトに関する情報（遺伝子、脳、細胞）を理解し、自分の知識に基づいた情報の取捨選択ができるようになることである。
授業計画 Syllabus	下記の予定。ただし、直前に変更することもある。 1. 高校生物の簡単な復習 2, 3. ホメオスタシス（血液・呼吸：01～03, 09～12） 4, 5. 食べること（消化と吸収：05～08） 6, 7. まとうこと（発汗・体温調節：13, 23） 8, 9. 動くこと（筋肉・神経：14, 15, 18, 21） 10, 11. 考えること（脳・神経：17, 19, 20） 12, 13. 感じること（感覚器：16, 22） 14. 成長すること（受精・発生：24～27） 15. 病気の仕組み（04, 28～36）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書を使いながら、講義形式で授業をする。教科書は図表を参照する程度なので、事前の予習と復習が必要。
評価方法 Evaluation	3回おこなう小テストと最終テストにより総合的に判定する。それぞれの重みづけは約1：1。
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯操作、途中退出など厳禁。受講態度によっては途中で退出してもらう（欠席扱いにする）ことがあるので、注意すること。
教科書 Textbook(s)	「好きになる生理学」田中越郎 講談社
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学V（健康科学）						
担当教員	馬場 恒子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	生活の衣食住が物質的に満たされると、人間は生活の質を考える。その基本は心身の健康である。しかし、物質的に過飽和状態になり、社会が複雑化し、さらに高齢化すると健康でない人々の割合が増える。そこでまず、「健康」の概念を定義し、日常生活における健康維持増進の基本原則や健康阻害要因（酒、たばこなど）を医学・薬学の立場から概説する。また、健康を害した時の対応としてセルフケア、薬や医療の関わり方についても考える。
授業計画 Syllabus	第1回 I 健康の概念 第2回 II 健康の評価 第3回 III 健康の現状 1. 食生活 2. 運動 第4回 III 健康の現状 3. ストレス 4. 休養 5. 睡眠 第5回 IV 健康阻害要因 1. 飽食・偏食 2. 運動量の過不足 第6回 IV 健康阻害要因 3. ストレス・疲労 第7回 IV 健康阻害要因 4. 飲酒 5. 喫煙 第8回 I・II・III・IVのまとめ テスト 第9回 V 生活習慣病 1. 成人病 2. 生活習慣と健康の関わり 第10回 V 生活習慣病 3. 生活習慣病の定義と特徴 4. メタボリックシンドローム 第11回 VI エイズ 第12回 VII 個人の健康管理 A. Self care and Self Medication 第13回 VII 個人の健康管理 B 薬 第14回 VII 個人の健康管理 C 医療との関わり方 第15回 V・VI・VIIのまとめ テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	100点満点のテスト(2回)：80% 5点満点の小テスト：20%
履修上の注意 Requirements and policy	* 授業の始めと終わりの挨拶 * 私語厳禁 * テストは記述式を主とするので、授業中に理解しておく。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動III（住行動）						
担当教員	大塚 毅彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>都市における人と住まいとの関わり 人が健康に生活を営むのに『住まい』はきわめて大切な場所であり、都市に住まう我々にとっては従来からの住戸の他に集住スタイルは特に欠かせないものとなっている。 本講義では、この都市的な生活様式に対応した住まいとはどのようなものかについて考え、特に人と住まいの関わりに焦点をあて、住まいに関わる人間行動を紹介する。都市で発生する諸問題（日照権）、住情報、高齢者や障害者との共生のための住まいのあり方（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）など、家族や地域、世代を考慮に入れて、住まいと様々な人間関係を考えるとともに考察する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 現代の住生活・住行動を考える 第2回 高齢者の自立と共生のための住まい →バリアフリー・ユニバーサルデザインによる住まい・まちづくり（1） 第3回 高齢者の自立と共生のための住まい →バリアフリー・ユニバーサルデザインによる住まい・まちづくり（2） 第4回 子どもの発達と住環境 第5回 健康と住まい 第6回 家族の生活と住生活（1） 第7回 家族の生活と住生活（2） 第8回 共生のすまいづくり 第9回 集住の生活スタイル 第10回 マインドマップを使って理想の住まいを考える 第11回 安心・安全の住まい（防犯） 第12回 住生活の経営 住まいの維持・管理 第13回 居住水準と住宅政策（住生活基本法・品確法等） 第14回 海外の住まい 第15回 ニューメディアと住情報・住まい学習</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type							
評価方法 Evaluation	＜学習態度（出席状況）、小テスト、レポート（4割）＞、＜試験（6割）＞によって評価						
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視する。欠席が3分1以上を超えた場合には、原則として履修したものとみなしません。講義中の私語、携帯の利用等他人に迷惑になる行為は厳禁						
教科書 Textbook(s)	適宜、プリントを配布する 住生活論（生活科学双書）[単行本] 出版社 建帛社：改訂版版（2001/05） ISBN-10:4767916208 ISBN-13:978-4767916200						
参考書 Reference(s)	居住福祉 著 早川和男（岩波書店） 居住福祉学と人間 著 日本居住福祉学会編（三五館）						
備考 Remarks							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅳ（消費行動）						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：消費の心理について考える</p> <p>現代の日本では経済活動の国や自治体による規制・統制は撤廃し、市場メカニズムに委ねる流れが強まっている。市場メカニズムとは、すなわち、生産・販売者側による消費者の欲望・欲求の掘り起こし・創造と消費者が欲求を満たしてくれる商品やサービスを求めつづけること、である。しかし一方で、欲求の拡張が憂えられコントロールの必要性が叫ばれるという矛盾した状況にある。</p> <p>そもそも欲望や欲求とは何だろうか。本授業では欲望と欲求について心理学を中心に学んでいく。そして、なぜ我々は買い物をするのかなど、具体的な消費行動に内在する心理について考えていく。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめにー私たちはなぜ買い物をするのか 2. 買い物の無い生活 3. 大衆消費社会の成立1：産業革命と生活の変化 4. 大衆消費社会の成立2：デパートの誕生 5. 大衆消費社会の成立3：娯楽としての買い物 6. 大衆消費社会の発展：デパートから総合SCへ 7. 大衆消費社会における問題1：万引き 8. 大衆消費社会における問題2：買い物依存 9. 大衆消費社会と欲求 10. 欲求とは何か 11. なぜ欲求のままに行動してはダメなのか 12. ヒトの基本的欲求 13. 社会的動物としての人間 14. 達成動機 15. 私たちはなぜ買い物をするのか
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業時に毎回提出する小課題50%とレポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	自分に関わる問題として捉え考えていく姿勢が必要です
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動論						
担当教員	坂井 信之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日常生活行動を理解する。 本講義は、様々な生活場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。前半は、衣食住などの生活行動において、科学技術の発展がどのように人間の生活を変えてきたか、また人間が、環境の変化に対してどのように適応してきたかということに関して心理学や人間工学などの観点から詳細に検討する。さらに最近の都市生活では、モノの豊かさだけでなく、こころの豊かさが求められるようになってきている。そこで、後半では、こころの豊かさについて、感性や生活の質（QOL）をキーワードに21世紀の都市生活の営み方についての提言を行う。
授業計画 Syllabus	1. 心理テストと性格検査（導入） 2. 生まれか育ちか？-双生児研究-（行動科学研究法） 3. 脳と心-ヒトが人である理由-（生物学と心理学） 4. 見ているのは目か？脳か？（感覚と知覚） 5. 私の人生を保証するもの（学習と記憶） 6. 頭のよさって何で測る？（知能と認知） 7. 子どもは世界をどう見ているか？（発達） 8. 大人になるということ（アイデンティティ） 9. 笑う、泣く、怒る、楽しむ（感情と情動） 10. 「よい人生」ってどういうもの？（動機づけ） 11. 使いやすいモノとは？（人間工学） 12. 他人の目、気になる？（社会心理学） 13. あなたはKY？（コミュニケーション） 14. もう騙されない（情報と行動） 15. より幸せになるために（まとめ）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	プレゼンテーションソフトを使った講演形式の授業となる。すべてのスライドのメモを取る必要はない。なお、授業以外（ホームページなど）でのスライドの公開はしない。毎回出てくる重要キーワードについて、自分なりの解釈をおこない、予習と復習をする必要がある。
評価方法 Evaluation	小レポートとテストより総合的に判断する（だいたい配分は1:1）。
履修上の注意 Requirements and policy	授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出などに対しては厳しく対処（出席点より減点）する。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムI（ライフライン）						
担当教員	池田 清						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>都市生活はハード的側面とソフト的側面の複雑なシステムで構成されているため、災害時にはそれらを浮きだたせるという特徴がある。そこで本講義では、公共サービスを中心としたインフラとしてライフラインや、私たちの生活をなりたたせている基本的人間関係や社会関係というソフトとしてのライフライン（いわゆる生命線）が、都市生活をどのようになりたたせているかについて講義する。</p> <p>災害時に現れる普段見えにくい人間関係や社会関係、さらに生活の様々な問題について、阪神大震災も含め、災害という視点から生活をとらえることによって、私たちの生活を成り立たせているシステムについての理解を深めていきたい。</p> <p>ライフラインすなわち「生命線」「生活線」を考察することで、今後のまちづくりのあり方を学ぶ。ライフラインとは、一人ひとりの生存権と発達権を保障する基盤である。その内容は、第1に、個人の生存権と発達権を保障する憲法と、その憲法を暮らしにいかす政治と行政経済、社会が求められる。第2に、生活や生産の共通の基盤ともいうもので、水・電気・ガス、エネルギー、交通・通信、情報の施設などハードな基盤である。第3に、生活を成り立たせている人間関係などのコミュニティや医療・福祉など社会基盤である。第4に、教育、研究、文化など知識情報基盤である。授業では、以上の問題が災害時に顕在化すること、それゆえ憲法が暮らしに根ざすまちづくりが必要なことを理解する。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらいと概要 2. 憲法と生命、暮らし 3. 憲法とひとり一人の個性と人権 4. 憲法とインフラストラクチャー 5. 憲法とライフライン 6. 水、電気、ガス、エネルギー、交通、通信、情報と生命、暮らし 7. 阪神・淡路大震災とライフライン 8. 大震災とインフラストラクチャー 9. 生存権と発達権を保障するまちづくり（都市防災を中心に） 10. ボランティアとライフライン 11. 賀川豊彦とボランティア 12. 賀川豊彦とライフライン 13. 人格と友愛の思想と実践 14. 「死線を越えて」から考えること 15. まとめと試験 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	阪神・淡路大震災など具体的事例をもとに学び合う雰囲気をつくる						
評価方法 Evaluation	試験、正当な理由なき欠席は減点 平常点30点、小テストかレポート20点、試験50点						
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話厳禁						
教科書 Textbook(s)	「生き方の不平等」白波瀬佐和子岩波新書、2010年						
参考書 Reference(s)							

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムV（生活と法）						
担当教員	大内 伸哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	私たちの日常生活においては、さまざまな法律がルールを設定している。本授業では、その中でも、私たちのほとんどが避けて通れない「働く」ということに焦点をあてて、どのような法的ルールがあるのかについて学習することを目的とする
授業計画 Syllabus	<p>以下のように授業を進行する（ただし、変更可能性はある）。</p> <p>なお、教科書とあるのは、『雇用はなぜ壊れたのか』の中の章である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講義の概要の説明 ② 教科書の第1章（法と道徳） ③ 教科書の第2章（女性労働） ④ 第1回 小テストと解説 ⑤ 教科書の第3章（労働時間） ⑥ 教科書の第4章（労働組合） ⑦ 教科書の第5章（就職活動） ⑧ 第2回 小テストと解説 ⑨ 教科書の第6章（職業人と会社人） ⑩ 教科書の第7章（解雇） ⑪ 第3回 小テストと解説 ⑫ 教科書の第8章（賃金） ⑬ 教科書の第9章（高齢者） ⑭ 第4回 小テストと解説 ⑮ 教科書の第10章、第11章（非正規社員、自営）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	授業は、教科書『雇用はなぜ壊れたのか』と『労働法学習帳』をベースに講義形式を進める。途中、小テスト（教科書の持ち込み可）を行う。
評価方法 Evaluation	平常点と小テスト（教科書の持ち込み可）の結果で評価する。両者の比率は、それぞれ50点とする。
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯メール、飲食は厳禁である。違反する者には退室を命じる。違反の程度が著しい者には、単位を認定しない。座席表どおりに着席していない者は欠席扱いとする。
教科書 Textbook(s)	大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』（ちくま新書） 大内伸哉『労働法学習帳』（弘文堂）
参考書 Reference(s)	大内伸哉『雇用社会の25の疑問』（弘文堂） 大内伸哉『どこまでやったらクビになるか』（新潮新書） 大内伸哉『キーワードからみた労働法』（日本法令）
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得することを目指す。</p> <p>実験や調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を習得することを目指している。授業は、確率論の考え方の概説からはじめ、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データと尺度水準 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. 散布図 5. データの標準化 6. 共分散と相関係数 7. データの視覚的表現 8. 母集団と確立分布 9. 統計的推定の一般手順 10. 統計的検定の一般手順 11. 平均値の差の検定 12. 分割表の検定 13. 相関係数の検定 14. ノンパラメトリック検定 15. 授業のまとめ、テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義 実習
評価方法 Evaluation	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>復習を必ずすること。</p> <p>授業中の私語、携帯電話、メール、遅刻（途中退出）などは厳しく対処する。</p>
教科書 Textbook(s)	資料配布する
参考書 Reference(s)	随時、紹介する
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得する。</p> <p>実験や調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説からはじめ、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データと尺度水準 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. 散布図 5. データの標準化 6. 共分散と相関係数 7. データの視覚的表現 8. 母集団と確立分布 9. 統計的推定の一般手順 10. 統計的検定の一般手順 11. 平均値の差の検定 12. 分割表の検定 13. 相関係数の検定 14. ノンパラメトリック検定 15. 授業のまとめ、テスト 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義 実習						
評価方法 Evaluation	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%						
履修上の注意 Requirements and policy	復習を必ずすること。 授業中の私語、携帯電話、メール、飲食、遅刻、途中退出等は厳しく対処する。						
教科書 Textbook(s)	なし（プリント配布）						
参考書 Reference(s)	随時、紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生命と酵素						
担当教員	飯塚 勝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	古くからバイオテクノロジーの分野で活躍している酵素を理解するため、酵素の研究の歴史（認識から利用まで）を知り、酵素についての知識を深める。酵素の給源、酵素の種類、酵素の性質、酵素反応のメカニズム、日頃恩恵を受けているそれを利用した食品加工、洗剤、医療（検査や治療）、環境浄化など例を挙げて酵素と生活のかかわりを講義する。
授業計画 Syllabus	第1回 環境とは？ 第2回 生命（生物）とは？ 第3回 人間とは？ 第4回 酵素とは？ 第5回 酵素の実験（洗剤、診断、消化） 第6回 酵素の分類 第7回 酵素の特異性 第8回 酵素の生産 第9回 酵素の生体内調節 第10回 酵素たんぱく質と機能 第11回 食品分野での酵素の利用 第12回 洗剤としての酵素の働き 第13回 健康診断に利用される酵素 第14回 環境浄化に関係した酵素 第15回 バイオテクノロジーと酵素 第16回 まとめ（試験）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と簡単な実験
評価方法 Evaluation	試験（70%）、レポート（30%）。受講率も考慮する。
履修上の注意 Requirements and policy	配布プリントはよく利用すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業の時に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目標： 定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができることを目標とする。</p> <p>概要： エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の集計・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータのの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポート作成 12. SPSSによる統計分析 ① 13. SPSSによる統計分析 ② 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%
履修上の注意 Requirements and policy	復習を必ずすること
教科書 Textbook(s)	なし（授業中に資料を配布する）
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目標： 定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができることを目標とする。</p> <p>概要： エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果係数と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード (ワードによるレポートの作成) 12. SPSSによる統計分析① 13. SPSSによる統計分析② 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%
履修上の注意 Requirements and policy	必ず復習すること
教科書 Textbook(s)	なし(資料配布)
参考書 Reference(s)	授業中、紹介します
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	片平 理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。 実習はグループで行うが基礎技術は各自が習得することを目標とする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野菜の切り方・炒め方 2. 白飯（p37）・味噌汁（p42）・キャベツ炒め（鮭缶） 3. 白飯（冷凍）・すまし汁（p37）・白身魚のおろし煮（p38）・こかぶ即席漬け（p51） 4. かやくごはん（p46）・むらくも汁（p54）・あじの姿焼き（p41） 5. かやくごはん（冷凍）・わかめスープ（p171）・肉じゃが（p45）・ほうれん草お浸し（p39） 6. ロールパン・コーンクリームスープ（p94）・ハンバーグ（p93）・サラダ（p102） 7. マカロニグラタン（p89）・カスタードプディング（p87） 8. ミネストローネ（p106）・じゃがいもコロッケ（プリント） 9. 白飯・さつま汁（p167）・だし巻き卵（p41）・かぼちゃの含め煮（p51） 10. 白飯（冷凍）・茶碗蒸し（p62）・天ぷら（p61）・きゅうりの酢の物（p43） 11. 雑煮（p73）・水引なます（p77）・りんごきんとん（p77）・田作り・松風羽子板（p74） 12. 鶏肉カツレツ（p118）・ロールケーキ（p123） 13. 五目炒めご飯（p139）・卵のスープ（p138）・ピーマンと牛肉の炒め物（p137） 14. お菓子 15. 実習試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	出席50%、レポート25%、テスト25%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>授業回数の2/3以上の出席がない場合は単位認定しない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>あすの健康と調理 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-887492-22-4 C3077</p>
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	<p>第1回目の授業で、注意事項を説明するので、必ず出席してください。 実習費（8000円）を徴収します。</p>

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法II						
担当教員	佐々木 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的：質的研究を行うにあたり基礎的な事柄について学習する。インタビュー調査を中心に、質的データの収集・整理・分析および公表に必要な基礎的能力を身につける。</p> <p>授業の概要：質的調査の一連のプロセス（研究テーマ・調査課題の設定、データの収集・整理・分析、報告書の作成）を経験することを通じて、質的研究について学ぶ。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には、各自でデータを収集・整理・分析したレポート集を作成してもらう予定である。（なお、受講者数によっては、多少内容を変更する可能性がある。）</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 社会調査とは</p> <p>第2回 質的研究の概要（1）</p> <p>第3回 質的研究の概要（2）</p> <p>第4回 調査企画の具体化</p> <p>第5回 関連する研究の検討（1）</p> <p>第6回 関連する研究の検討（2）</p> <p>第7回 調査課題の設定</p> <p>第8回 インタビュー調査の方法</p> <p>第9回 データの公表と調査倫理</p> <p>第10回 データ収集・整理・分析の練習（1）</p> <p>第11回 データ収集・整理・分析の練習（2）</p> <p>第12回 データ収集・整理・分析の練習（3）</p> <p>第13回 データ収集・整理・分析の練習（4）</p> <p>第14回 報告書作成作業（1）</p> <p>第15回 報告書作成作業（2）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義・実習
評価方法 Evaluation	授業への参加態度、授業中の課題、最終レポートによって総合的に評価する。 （授業内課題30%、レポート提出30%、レポート評価40%）
履修上の注意 Requirements and policy	最終レポートを作成するためには、定期的に課される授業内課題をきちんとこなしていくことは必須である。また、優秀レポートは冊子にして配布する予定なので、冊子への掲載を目指して意欲的に課題に取り組んでもらいたい。
教科書 Textbook(s)	なし（授業中に適宜資料を配付する）
参考書 Reference(s)	谷富夫・芦田徹郎編，2009『よくわかる質的調査 技法編』ミネルヴァ書房
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活基礎演習						
担当教員	池田 清						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代という時代は、①戦争・核の危機、②貧困・格差、③地球環境問題、という3つの難問を抱えている。これらは相互に関連している。都市生活基礎演習では、神戸という都市を題材にして上記の3つの問題を考えていく。必要であるならばフィールドワークを行う。以上、学生とコミュニケーションをとりながらすすめていく。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. この演習のねらいと概要の説明 2. 情報収集と文献検索の方法 3. 戦争と核の問題を考える 4. 広島・長崎の被爆問題 5. 地球環境問題を新聞やビデオなどで考える 6. 現代の貧困・格差問題を新聞やビデオなどで考える 7. 新聞と考えること 8. 新聞と学ぶということ 9. 新聞を読むことを通じて社会を理解する 10. 新聞から各自の研究テーマを選択させる 11. フィールドワークの方法 12. NPOの活動などを調査する 13. NGOの活動を調査する 14. 各自のテーマの報告と討論 15. レポートの作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	学生の自主性と尊重し意欲を高める
評価方法 Evaluation	議論への参加、意欲、レポートの内容 平常点40点、レポート 60点
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁
教科書 Textbook(s)	授業のとき紹介する

参考書 Reference(s)	授業のとき紹介する
備考 Remarks	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活論						
担当教員	池田 清						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。また、少子高齢化、核家族化、DINKs、シングルライフなどライフスタイルも多様化してきている。こうしたことにより、コミュニティ形成の難しさや生活マナーの問題が各地で出てきている。</p> <p>本講義では、都市の成り立ちも含めたハードな環境や生活上のソフト面を解説し、まちに関心を持ってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。</p> <p>都市における貧困、格差、女性問題について考える。</p> <p>人は、都市という空間を創造し、より自由で快適な生活を求めてきた。たしかに都市生活は、安定した職業と一定の所得があれば便利で楽しい暮らしを保障してくれる。だが現在の日本社会は、世界的な金融危機と大不況のもとで、派遣社員のみならず正規社員までもリストラされ、年収200万円にも満たない非正規雇用者が1000万人にも達している。このような問題は、女性や若者世代にしわ寄せされている。給料が低く、仕事が忙しすぎて結婚できない若者、結婚しても子供が産めないカップルが増えている。さらにホームレスやネットカフェ難民、年間3万にも達する自殺者が相次いでいる。ある意味で、もっと深刻なのは、心を打ち明ける友や仲間がいない、ひとり孤独で悩んでいる人が多いことである。以上の問題を具体的な事例をあげながら説明し、今後の課題を考える。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらいと概要の説明 2. 都市生活とコミュニケーション能力 (1) 3. 都市生活とコミュニケーション能力 (2) 4. 人間発達とコミュニケーション能力 5. コミュニケーション能力の障害 6. 日本型雇用システム 7. 日本型雇用システムの転換 8. 失業とワーキングプア 9. 貧困と格差、ジェンダー問題 10. 貧困と格差社会の行方 11. 貧困と格差社会の課題と克服の方向 12. 学生とバイトの問題を考える 13. 女性と労働と家庭 14. 女性の自立とは 15. まとめと試験 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	都市における生活困難と打開の方向を探る						
評価方法 Evaluation	試験、正当な理由なき欠席は減点 平常点30点、小テストかレポート20点、試験50点						
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話厳禁						
教科書 Textbook(s)	「NHK 歴史は眠らない」日本放送出版協会2010年8-9月、第6巻第10号						
参考書 Reference(s)							

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	被服などの繊維製品は主に布から構成されている。布は、糸が織られたり編まれたり絡められたりしてできている。そして、糸は細くて長い繊維が撚られてできている。本講義では、布や糸に焦点を当て、それらがどのように構成されているのかについて解説を行う。糸には、紡績糸やフィラメント糸、コマ糸やカード糸、梳毛糸や紡毛糸など、布には、織物や編物（ニット）、不織布、合成皮革などの様々な布があるが、それら個々についても詳しく触れる。また、布や糸の物理的性質、例えば強伸度やドレープ性、耐磨耗性、通気性、吸水性、保温性なども、その試験法や特徴が発現する原理について、詳細に講義する。						
授業計画 Syllabus	第1回：糸の基礎『糸はどのようにできているのだろうか』 第2回：糸の種類『紡績糸、コマ糸、梳毛糸、諸撚糸など』 第3回：糸の太さ『番手、デニール、テックス』 第4回：布の基礎『布はどのようにできているのだろうか』 第5回：織物の種類『平織、綾織、朱子織、斜子織、畝織など』 第6回：織物を構成してみよう『折り紙で織物作り』 第7回：編物（ニット）の基礎『天竺、ゴム編、スムース、トリコットなど』 第8回：その他の布『不織布、レース、皮革など』 第9回：被服材料の性能①『繊維の性質、糸の性能』 第10回：被服材料の性能②『保健衛生的性能』 第11回：被服材料の性能③『外観、形態安定性能』 第13回：被服材料の性能④『耐久性能、風合い性能』 第13回：被服材料の性能改善①『保健衛生的加工、審美加工』 第14回：被服材料の性能改善②『機能性加工』 第15回：総括と試験						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	平常点（25～35％）、小テスト・制作課題（20～30％）、試験（40～50％） 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の2以上の欠席で平常点はほぼなくなる。						
履修上の注意 Requirements and policy	特になし						
教科書 Textbook(s)	日下部 信幸（著）『生活のための被服材料学』（家政教育社）ISBN 4-7606-0277-1						
参考書 Reference(s)	田中 道一（著）『洋服地の事典』（みずしま加工）						
備考 Remarks	3年次配当科目の「被服材料学実験」に必要な内容を講義する。 評価方法欄には誤記があります。全授業回数の3分の2以上出席しなければ、平常点は非常に低い点数になるということです。評価方法欄の訂正はシステム上不可能なので、ここに訂正を記します。（H22年9月）						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	被服整理とは、使用途中の被服をきちんと整えるということ、そこには洗濯や漂白、手入れや保管といった行動が伴う。その場合、汚れをいかに落とすかということ以外にも、色落ちや色あせなく洗濯したり、衣類を保管したりすることも重要なことである。この授業では、被服の洗浄に関することと、それと密接な関係にある染色や漂白について、被服整理学の講義で学んだことを、実験を行うことでより深く理解する。						
授業計画 Syllabus	第1回：界面現象の観察 第2回：界面活性剤の性質と作用 第3回：セッケンの製造 第4回：界面活性剤の分析 第5回：洗浄試験、水洗濯とドライクリーニング 第6回：精練・漂白・増白 第7回：酸性染料による絹の染色とpHの影響 第8回：直接染料による綿の染色と助剤の効果 第9回：反応染料による三原色配合染色 第10回：分散染料による疎水性繊維の染色、ナフトール染料による綿の染色 第11回：建染染料による染色（ハンカチを藍染め） 第12回：天然染料（西洋茜）による染色（綿のバッグ） 第13回：染色堅牢度試験 第14回：化粧品製造、しみ抜き 第15回：苦情事例の分析						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	実験						
評価方法 Evaluation	平常点（40～60%）、レポート（40～60%） 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の2以上の欠席で平常点はほぼなくなる。						
履修上の注意 Requirements and policy	被服整理学（講義）の履修者に限る。						
教科書 Textbook (s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference (s)							
備考 Remarks	白衣を購入し、初回授業で持参して下さい。 評価方法欄には誤記があります。全授業回数の3分の2以上出席しなければ、平常点は非常に低い点数になるということです。評価方法欄の訂正はシステム上不可能なので、ここに訂正を記します。（H22年9月）						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	被服素材の主たるものは繊維である。繊維は天然・合成問わず数多くの種類があり、各繊維の特徴を活かしたアパレルが企画され、世に出ている。ここでは、あまたの繊維を順に追って、概略や特徴、化学・物理的性質、そして取扱いや最新の技術動向まで触れ、詳しく解説する。また、20世紀の後半に誕生したスーパー繊維や新合繊、さらにそれを越えた快適性や審美性などを有する機能性繊維についても、最新の動向を踏まえて紹介する。
授業計画 Syllabus	第1回：繊維概論と化学繊維開発史 第2回：天然繊維－植物繊維－①綿 第3回：天然繊維－植物繊維－②麻、その他の植物繊維 第4回：天然繊維－動物繊維－①絹 第5回：天然繊維－動物繊維－②羊毛、獣毛 第6回：化学繊維－再生繊維・半合成繊維－レーヨン、キュプラ、アセテート 第7回：化学繊維－合成繊維－①ナイロン、アクリル 第8回：化学繊維－合成繊維－②ポリエステル 第9回：化学繊維－合成繊維－③ポリウレタン、ビニロン、他 第10回：化学繊維－新しい繊維－リヨセル、ポリ乳酸繊維、他 第11回：化学繊維－無機繊維、スーパー繊維－炭素繊維、アラミド繊維、PBO繊維、他 第12回：新感性繊維－極細繊維、異形断面繊維、他 第13回：フロンティア繊維－超親水性繊維、インテリジェントファイバー、他 第14回：繊維製品のリサイクル 第15回：総括と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点(20～30%)、小テスト(25～35%)、試験(40～50%) 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の2以上の欠席で平常点はほぼなくなる。
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	評価方法欄には誤記があります。全授業回数の3分の2以上出席しなければ、平常点は非常に低い点数になるということです。評価方法欄の訂正はシステム上不可能なので、ここに訂正を記します。(H22年9月)

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	消費者嗜好の多様化、それによる生活習慣病の増加、食品加工や保存管理など食流通への不安など食生活の見直しが幅広い領域で行われている今こそ、栄養士（管理栄養士）とは違う高度な食品・食物に関する専門知識を必要とする。 本講では、食品の開発検査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・販売促進、快適な食事コーディネート、食育活動など推進できる専門職の育成を目指し、以下の内容で解説する。
授業計画 Syllabus	第1回：フードスペシャリストとは 第2回：おいしさの追求 第3回：食生活の変遷 第4回：食の消費行動 第5回：食の消費現場とこれに対応する食産業 第6回：食品の品質規格 第7回：食べ物の安全性確保に関する法律 第8回：食品の鮮度と熟度、および鑑別検査の概要 第9回：食物の安全性 第10回：消費者保護 第11回：食の情報とその活用 第12回：現代の食卓の課題 第13回：食教育とは 第14回：人類と食環境 第15回：フードスペシャリストの役割と展望
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%
履修上の注意 Requirements and policy	フードスペシャリストの資格取得希望者は必ず受講すること
教科書 Textbook(s)	「フードスペシャリスト論」（社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、1998年
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	